

1. 社会・治安情勢

- (1) リオデジャネイロ州全域で拳銃や小銃，手榴弾等を使用した殺人，強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。

2008年以降，積極的なUPP（州軍警察平和構築部隊）の設置などにより改善しつつあったリオの治安は，2013年頃より伯経済の低迷などを背景として，再び悪化の一途を辿っており，2016年に入ってから，リオ州の財政破綻によって警察当局が治安対策のために必要な人的・物的対策を十分に整備することが困難となったこともあり，オリンピック・パラリンピックが終了した昨年後半から急激に体感治安が悪化している。

- (2) この様な中，犯罪捜査を担当する州文民警察が本年1月から4月までの間，未払賃金等の支払いと職場環境の改善を求めるストライキを実施したことにより，殺人，強盗致傷といった凶悪犯罪以外の被害届が受理されないなどの問題が生じた（本年4月7日にストライキ解除）。

また，依然として貧困層の少年らによる「アハスタオン（地引き綱）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部や海岸，幹線道路沿いで発生しており，治安当局もこれらの取締りを強化しているが，健全育成の方針を主眼とした少年法の影響により，逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまうなど，警察による取締りが治安改善に直結していない現状にある。

- (3) 現在，リオデジャネイロ市内及びその周辺に約1,000か所存在するといわれるファベラ（スラム街）を中心に敵対する麻薬密売組織間における抗争が激化するとともに，UPPをはじめとした治安当局と麻薬密売組織間における銃撃戦も頻発しており，流れ弾による一般市民の被害が後を絶たない。

さらに，幹線道路等においては，積荷を積載した車両を襲撃し，車両ごと強取する手口などによる積荷強盗が多発しており，喫緊の課題となっている。

- (4) リオ州政府としても，治安を担当する公安局が中心となり，治安回復に取り組んではいるものの，州の財政難による新規採用警察官の見送りや超過勤務の抑制，装備・資器材の故障，殉職・離職警察官の増加，組織的な汚職警察官の摘発等により警察力が低下する一方，凶悪犯罪は増加しており，犯罪の増加に歯止めを掛けられない状況にある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) リオ州公安局統計院（ISP）によれば，2016年のリオ市内における殺人事件の発生件数は，1,330件で，昨年と比べて124件増加している。

また，強盗事件の発生件数は，10万3,014件と，過去10年間で初

めて10万件を超える結果となった。

- (2) 第1四半期中、セラロン階段やコパカバーナ海岸等の観光名所において、邦人観光客等が現金や携帯電話等を強取されるなど、引き続き路上強盗に対する注意が必要である。
- (3) なお、2016年のリオ市人口10万人当たりの犯罪発生率は、殺人が日本の約28倍(前年24倍)、強盗は約830倍(前年630倍)と極めて高い比率で推移している。

3. リオ州犯罪発生状況 2017年4月(前年同月比増減数)

	リオ州	リオ市
殺人	430 (-45)	122 (+12)
強姦	363 (-65)	117 (+1)
商業施設強盗	651 (+76)	321 (+76)
住居侵入強盗	127 (+20)	44 (+4)
車両強盗	4,891 (+1632)	2,290 (+752)
路上強盗	8,551 (+1777)	4,430 (+1057)
交通機関内強盗	1,591 (+695)	888 (+402)
携帯電話強盗	2,519 (+1063)	1,359 (+625)
強盗総数	22,929 (+7418)	12,089 (+4330)
窃盗総数	12,710 (-323)	7,705 (+601)

4. リオ市南部犯罪発生状況 2017年4月(前年同月比増減数)

【フラメンゴ・ボタフォゴ地区】

殺人	0 (-1)
商業施設強盗	23 (+12)
住居侵入強盗	2 (±0)
車両強盗	54 (+36)
路上強盗	132 (+20)
交通機関内強盗	24 (+3)
携帯電話強盗	37 (+6)
強盗総数	339 (+111)
窃盗総数	494 (+36)

【コパカバーナ地区】

殺人	1 (-1)
商業施設強盗	12 (+3)
住居侵入強盗	1 (+1)
車両強盗	6 (+4)
路上強盗	103 (+55)

交通機関内強盗	16 (+9)
携帯電話強盗	40 (+30)
強盗総数	276 (+157)
窃盗総数	863 (+315)

【イパネマ・レブロン地区】

殺人	1 (-1)
商業施設強盗	1 (-1)
住居侵入強盗	3 (-1)
車両強盗	7 (+2)
路上強盗	64 (+1)
交通機関内強盗	4 (±0)
携帯電話強盗	14 (±0)
強盗総数	121 (-3)
窃盗総数	447 (-63)

5. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

(1) ラランジェイラス地区で強盗殺人事件が発生

4月14日（金）午前0時頃、ラランジェイラス地区ラランジェイラス通りとピニエイロマシャード通りとの交差点付近（グアナバラ宮殿付近）において、男女2名が二人乗りでバイクに乗車中、別の二人乗りのバイクが近づき、男女に対し金品を要求。運転していた男性（19歳）が逃げようと急発進したところ、銃撃を受けた。男性は近くの病院に緊急搬送されたが、その後死亡した。

(2) イパネマ地区でATM爆破事件が発生

4月21日（金）早朝、リオ市イパネマ地区ノッサ・セニョーラ・ダ・パス広場に設置されているATMが手製爆弾を用いて爆破され、ATM内から現金6万リアルが強奪された。本年3月から4月までの間、リオ州において、9件のATM爆破事件が発生した。

(3) コパカバーナ地区でアハスタオン（集団強盗事件）が発生

4月28日（金）午前8時20分頃、コパカバーナ地区アトランチカ大通りにおいて、集団路上強盗事件が発生した。通勤途次の邦人に危険が及んだものの、危うく難を逃れた。

(4) 大規模抗議デモの発生

4月28日、セントロ地区の州議会議事堂周辺において、年金改革法案等に反対する大規模抗議デモが実施され、『ブラック・ブックス』を中心とした一部暴徒化したデモ参加者と警察との間の衝突により負傷者が出たほか、デモ参加者が商店や銀行等を襲撃、バス等への放火（バス9台焼損）を行う

など、大きな混乱が生じた。

(5) サン・クリストヴァオン地区で殺人事件が発生

5月5日(木)午前8時30分頃、リオ市北部サン・クリストヴァオン地区のキンタ・ダ・ボア・ビスタ公園の前において(動物園周辺)、休暇中の私服警察官が車両強盗事件を目撃し、被疑者らを取り押さえようとしたところ、同人らの発砲を受け、死亡した。

(6) コパカバーナ地区で新手の窃盗事件が発生

5月上旬、リオ市コパカバーナ海岸及びその周辺歩道上において、海水浴客や歩行中の観光客等を狙った窃盗(置き引き、ひったくり)事件が発生。

その手口は、「歩行者の後方から足早に近づき、一瞬のうちにウエストポーチのバックル部分をはずしてウエストポーチを窃取する」、「自転車で歩行者に近づき、すれ違い様にバッグなどを窃取する」などである。

さらに、新たな手口として、「被疑者らがカンガ売りと結託し、カンガ売りが海水浴客にカンガを広げて海水浴客の視界を奪っている隙に、被疑者らが同海水浴客の所持品を奪う」という手口である。

(7) ボタフォゴ地区で路上強盗事件が発生

5月23日(火)未明、リオ市ボタフォゴ地区路上において、被疑者5名が黒色の車で移動しながら、歩行者に対し、路上強盗を行っていたところ、付近警戒中の軍警察官が被疑者らの犯行を目撃し、ボタフォゴ地区からランジェイラス地区まで追跡し、グアナバラ宮殿周辺で被疑者らを逮捕した。被疑者5名のうち、1名が死亡、1名が負傷、2名が逮捕、1名が逃走中で、被疑者らが所持していた拳銃は、玩具の拳銃だった。

(8) リオ市内国際空港周辺で拳銃強盗事件が発生

5月23日(火)午前11時頃、リオ市内北地方『ガレオン橋』において、被疑者7名が2台の車で交通の流れを止めた上、停車した車両を取り囲み、運転手を拳銃で脅すなどして電化製品を積載しているバン様の車両を強奪した。犯行時間は約2分間と計画的なもので、被疑者7名は現場から逃走した。

(9) 5月29日(月)午後7時30分頃、リオ市南部ランジェイラス地区ランジェイラス通り『ロージャス・アメリカナス』に3名の若者が侵入し、所携の拳銃で発砲した。この発砲により、付近で買い物などをしていた3名(63歳男性1名、17歳女性2名)が各々手足などに銃撃(流れ弾)を受け、付近の市立病院に搬送された。犯人グループは現場から逃走した。被害者の17歳の女性は、取材に対し、「ランジェイラスは安全な地区だと思っていたけど、もうリオに安全な場所はない。」などとコメントしている。

(10) 大規模抗議デモの発生

5月28日、リオ市内コパカバーナ地区アトランチカ大通りにおいて、テメル大統領の辞任などを求める大規模抗議デモが著名な音楽家と共に開催さ

れた。暴力行為等の発生は報告されていないが、ピーク時の動員数は10万人と報道された。

(11) コパカバーナ地区で銃撃戦が発生

6月12日(月)午後4時30分頃、リオ市コパカバーナ地区『サー・フェレイラ通り』付近において、UPP(リオ州軍警察平和構築部隊)がパバオン・パバオンジーニョ(ファベラ)周辺の警戒活動を実施していたところ、これに対し、麻薬密売組織のメンバーが発砲したことから、UPPが『サー・フェレイラ通り』から応戦し、警察と麻薬密売組織における激しい銃撃戦が発生した。この銃撃戦により、19歳の少年が首に銃弾を受けて死亡、このほか女性1名が負傷したと報じられている。現場周辺には無数の空薬莢が散乱するとともに、周囲の混乱は夜中まで続いた。

(12) フラメンゴ地区で銃撃戦が発生

6月26日午後4時30分頃、リオ市南部フラメンゴ地区当館入居ビル前路上において、強盗未遂事件が発生した。当館入居ビルの警備員等によれば、警察と犯人との間で銃撃戦があり、双方共に負傷した模様である。

(13) コパカバーナ地区で手榴弾の投擲事件が発生

6月28日(水)正午頃、リオ市コパカバーナ地区『セイント・ロマン通り』付近において、UPP(リオ州軍警察平和構築部隊)がパバオン・パバオンジーニョ周辺の警戒活動を実施していたところ、麻薬密売組織から手榴弾の投擲を受け、警察と麻薬密売組織間における激しい銃撃戦が発生した。手榴弾の投擲により、現場付近のアパートで門番をしている男性1名(38歳)が手榴弾の破片により受傷して死亡したほか、少なくとも3名が負傷、この後も断続的な銃撃戦の発生により、現場付近の道路交通や商店の営業に影響を与えた。

6. 邦人被害

(1) 邦人旅行者のスキミング被害

4月中旬、邦人旅行者が自身の銀行利用明細を確認したところ、身に覚えのない複数回のクレジットカード(マスターカード)利用履歴を確認し、数千レアルの被害が判明した。同旅行者は、4月上旬にブラジルに到着して以降、リオやサンパウロ等において、複数回に亘り、同クレジットカードを利用しており、犯行手段等については未解明である。

(2) ラゴア地区で在留邦人の侵入盗被害

5月4日(木)午後3時30分頃から同日午後4時20分頃までの間、リオ市ラゴア地区所在のマンションにおいて、被疑者2名(未成年者と思われる)が同所マンション警備員に対し、「〇〇号室(被害者宅)の鍵を持っているから中に入る。」などと申し向けてマンション内に侵入し、在留邦人宅

裏口扉を強引に押し開けた上、室内を散乱物色し、同人所有の現金2万7千円（邦貨）ほかiPadなど数点（時価合計11万円相当）を窃取した。

（3）サントス・ドウモン空港で在留邦人の窃盗被害

5月17日（水）午後7時頃、サントス・ドウモン空港出発ターミナル出口において、邦人男性1名が、空港のカートに手荷物を乗せてタクシー待ちをしていたところ（サンパウロからの商用帰り）、黒人男性1名（年齢30歳位、中肉、背が高い、くせ毛）が同男性に近寄り、周囲に小銭をばらまいて同人の注意を惹きつけた上、他の共犯者が邦人男性所有の現金3,700ドル及び身分証、iPad、銀行カード等在中の手提鞆を窃取した。被疑者らは、本件犯行直後、邦人男性所有のICチップ内蔵の銀行カードのキャッシュ機能あるいはクレジット機能を利用して、多額の現金を引き出した。

（4）セントロ地区の観光名所で邦人旅行者の強盗致傷被害

6月5日（月）午前7時半頃、邦人男性旅行者1名が、リオ市セントロ地区所在の観光名所『セラロン階段』において、同階段を所携のデジタルカメラで撮影していたところ、二人組の男（年齢20歳位、白人男性1名、褐色男性1名）に取り囲まれ、現金、旅券、クレジットカード等在中のウエストバッグ1個及びデジタルカメラ1台を強取された。被害者が同バッグを盗られないように抵抗したところ、地面に押し倒されるなどの暴行を受け、頭部、手足等に擦過傷等の怪我を負った。被疑者2名のうち1名は、拳銃様の物を所持していた。

7. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

8. 誘拐・恐喝事件発生状況

邦人被害は認知していない。

2017年4月中、リオ州内で短時間誘拐6件、恐喝132件が発生しており、いずれも高い水準で推移している。